

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300033
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家
事業所名	グループホーム ふるさとの家「城下」
所在地	〒855-0862 長崎県島原市新湊2丁目丙1830 (電話) 0957-64-0578

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月14日	評価確定日	平成20年12月10日

【情報提供票より】(平成20年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 10年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	実費・光熱水費100円/日	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立島原病院・島原保養院・スマイル歯科・まき歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の施設における経験から、理想とする認知症ケアの実践を目指し、ホーム開設にあたってその思いの具現化に不可欠と探し求められた建物がこの築70年の古民家であった。年月の重みと郷愁、訪れた人を包み込む暖かさは、入居者が初めてホームに来られた時に思わず「ふるさとの生まれ育った家がある」の言葉を引き出し、馴染みの環境へと導いてくれる。外観のみならず、暮らし方も「昔」にこだわり、失われつつある大家族の暮らしをそのままに入居者とスタッフは日々を送っている。8月に行われた職員同士のホーム内結婚式には入居者が参列し、祝いの場の晴れ晴れとした表情と和やかな様子を写真で見せていただき心温まるものがあった。昼の憩いも夜の就寝も、一人ではない環境は孤独を和らげ、入居者同士のピア介護の場を自然に引き出している。地域とのつながりも深く、支えあって生活する昔の暮らしの良さがその点にもある。先駆者として開設10年を迎え、今後も取り組みの発展に期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善計画シートを作成し、着実に改善へ取り組んでいる。指摘のあった介護計画の書式のなかには、本人、家族の意向を記入する記述欄を設け、家族の同意欄には日付、署名、捺印をいただいている。災害対策では、自然災害に対するマニュアルを作成し見やすい場所に掲示している。又、持ち出し品、備蓄の確認、把握を定期的に行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価項目を配布し、1ヶ月をかけて各自全項目を記入し、運営者、職員ですり合わせをしながら集約、相違点を改善項目として挙げていくという方法で、全員で取り組まれている。評価を事業所に対するものだけに捉えず、自己評価に取り組むことで個々の職員の自己研鑽に繋がると、深い理解と有意義な活用がなされている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回、家族代表、町内会評議委員、市介護保険課職員、管理者を参加メンバーとして会議を開催している。今年度は開設10周年事業もあり多忙の為開催が困難な時もあったが、7月の子供交流会に会議メンバーに参加いただくなどホームの活動を伝える機会も設けた。地域代表の会議メンバーは協力的で、職歴を活かして食事の献立に助言をいただくなどサービスに反映されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>行事の際は、家族あてに招待状を出して参加いただき、交流と意見聴取の場としている。日常の面会時にも折に触れて家族へ意見、要望を尋ね、常に傾聴の姿勢を持ってサービスの反映に努めている。家族との信頼関係構築の場面として、また家族と入居者とのつながりへの支援も含めて自宅訪問の重要性を意識している。入居者の様子は面会時の他、担当職員が個別に手紙、電話にて報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との交流は、細やかに10年間かけて取り組まれた結果として極めて良好である。自治会に加入し地域の行事や公民館清掃などの奉仕活動にも参加している。回覧板を入居者に持って行って頂いたり、畑の収穫物をおすそ分けする日常的な交流を絶やさぬ中で、体調を崩している見かけない入居者の安否を近隣の方が気遣われるなど、自然で深い交流が窺えた。</p>

2. 評価結果（詳細）

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老いても、障害を持って、当たり前に分らしく普通に暮らしたい。」の基本理念を何より大切に開設10年を迎えた。「昔を思い出し再び生きていくこと」という意味の「二度草わらじ」という言葉を引き合いに出され、支援する側がこの言葉の意を心得て入居者のそれまでの人生を尊重し、入居者が地域の中で生きていくお手伝いすることとしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念として「1.一人一人が楽しくゆっくりと過ごされる思いやりの心を持ち寄り添います。2.その人らしさを引き出し、手出し、口出しせずのびのびと生活されるようお手伝いします。3.常に入居者の立場に立ち笑顔を絶やさず信頼されるパートナーを目指します。」の三つの文言をあげて玄関に掲示して、ホーム理念と共に常に念頭に置きながら一貫した支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流は、細やかに10年間取り組まれた結果として極めて良好である。自治会に加入し、スポーツ大会、祭り、精霊流しなどの行事や公民館清掃などの奉仕活動に参加している。回覧板を入居者を持って行って頂いたり、畑で収穫したジャガイモをおすそ分けするなど、日常的な近隣との付き合いがある中で、近隣の方が体調を崩して見かけない入居者の安否を尋ねられるなど、自然で深い交流が窺えた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組んでいる。全員に評価項目がコピーして渡され1ヶ月かけて各自全項目を記入し、運営者、職員ですり合わせして集約していく中で相違点を改善項目として挙げていくという方法で真摯に取り組まれている。評価を事業所全体に対するものだけでなく、自己評価に取り組むことで個々の職員の自己研鑽に繋がりたいと、深い理解と有意義な活用がうかがえた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族代表、町内会評議員、市介護保険課職員、管理者を参加メンバーとして会議を開催している。今年度は開設10周年事業もあり多忙の為開催が困難な場合もあったが、7月の子供交流会に会議メンバーに参加いただくなどホームの様子を伝える機会も設けた。地域代表のメンバーは協力的で、職歴を活かして食事の献立に助言を頂くなどサービスに反映されている。		

グループホーム ふるさとの家「城下」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者はグループホーム連絡協議会の世話役を務め、認知症介護実践研修の講師もされるなど行政と連携の機会が多い中で、協力、情報収集、相談などホームの運営に反映されている。行政からの声かけで、入居者も共に公園の草取り、植樹祭への参加の機会があった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの通信は現在休刊しているが、家族への入居者の近況報告は担当者が個別に手紙にて行っている。また、行事の折の写真も請求書と共に送付し喜ばれている。家族の面会は多く、その都度、口頭で様子を伝え、必要に応じて電話で伝えている。外出の際に、その途上で気軽に入居者の自宅へ立ち寄り近況を知らせることもされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの行事や法人内3事業所合同の行事の際は、家族あてに招待状を出して参加いただき、交流と家族からの意見聴取の場としている。日常の面会時にも折に触れて家族へ意見、要望を尋ね、常に傾聴の姿勢をもってサービスへの反映に努めている。家族との信頼関係構築の場面として、また家族と入居者との繋がりへの支援も含めて自宅訪問の重要性を意識している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人員配置などの必要時以外は、基本的に法人内施設での定期異動は行っていない。マンネリ化を防ぎたいと考えることもあるが、入居者との馴染みの関係、異動による影響をまずは考慮している。しかし、法人内における交流の機会は多く、当ホームに近い事業所とは行き来も頻繁で法人内の入居者、職員同士は顔馴染みである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内4施設合同の勉強会を行っている。2ヶ月に1回は内部研修の機会を持ち研鑽に努めている。外部研修は個々で出来る限り参加するようにしており、参加した場合は報告書を作成し、閲覧することでの伝達講習もなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原グループホーム連絡協議会に参加しており、運営者間、職員間の交流がなされている。月に1回職員研修会も開催され、風船バレー大会などの行事なども参加している。また市内の花火大会の際には、親しくしている他事業所を招いて近くの少し高台にある法人内事業所で共に花火見物をして交流が図られた。		

グループホーム ふるさとの家「城下」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居を希望された場合は、病院、自宅訪問をして、本人と家族からその暮らしぶりや意向をうかがい、入居されてからは最初に取ったアセスメントに沿って言葉かけによる対応を重ねて馴染んでいただくよう努めている。ホームを見学された入居希望者で、ホームの外観を見てすぐにかつて過ごした郷里の家などを思い出され安心して入居へ繋がっていかれる方も多い。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入浴介助の折に、リラックスした時間の中で問わず語りに深い人生経験を入居者から伺い、学ぶこともある。夜勤の際に、他の入居者のケアにあたる職員に労わりとねぎらいの言葉をかけてくださる入居者もおられ、夜半、眠れない方とは職員もお茶を共にして、語りの中でしばしの安らぎを得ることもある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>基本情報において、入居者の生まれてから現在に至るまでの生活歴が把握できるようにしている。年に1回新たな情報、変化、家族の要望などを取り入れ、日常の気付きも挙げて個別性の高い支援へと繋げていくようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケア会議において、本人や家族の意向を考慮し、個性を持ってサービス内容を詳細に記入し、出来ることを取り入れて目標を立てて、達成していく介護計画が作成されている。前回評価に沿って改善に取り組み、本人と家族の意向を記入する欄を設け、家族同意欄の日付、署名、捺印をいただいている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月1回、気付きをあげた連絡ノートやモニタリング表をチェックし、見直しや状態変化に対しては柔軟に対応できる計画となっている。</p>		

グループホーム ふるさとの家「城下」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、外泊など入居者、家族の要望に応じて柔軟な支援がなされている。法人内の他施設との連携による合同行事や、運営者自らによる音楽療法も、入居者に好評である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への継続した受診支援を行っている。通院支援も行っているが、入居者の状態を把握していただくために家族にも同行して頂くようにしている。同行できなかった場合も電話、手紙で受診結果は家族へ報告している。往診にも応じていただける入居者の主治医は、夜中でも連絡が取れ対応可能でありホームの協力医としても安心が得られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関しての事例は現在までに経験しており、ホームの方針として本人、家族の希望があればターミナルケアへの取り組みをすることを明確に表明し伝えている。本人、家族の意向、主治医、協力医との相談、連携のもと、ホームが最大限できることを話し合いながら支援にあたることとしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	古い日本家屋における大家族の生活形態の中で、視線などに配慮し着替えや就寝時にはさっと衝立を立てる対応をしている。声かけは丁寧に耳元で落ち着いた音量を意識し、支援において行動の阻止とならない言葉かけに配慮している。障害により食事の際に食べこぼしなどを気にされている入居者に対して、入居者同士の食卓での席にも心配りしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の個性を尊重している。一日の決まった流れを強いることがないように支援している。例えば、入居者は好きな時間に起床され就寝されている。遅く起きてこられた入居者にはその時間に合わせて食事の時間と量を調整するなどの配慮がなされ、健やかにその方のペースに合わせた生活が送れる支援がなされている。		

グループホーム ふるさとの家「城下」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣の方などからいただいた野菜をはじめ旬の素材を活かした献立に心がけ、運営推進会議委員のアドバイスによる季節を感じる盛り付けが目でも楽しむ食の支援となっている。入居者には下拵えや、調理法の助言と手伝っていただく機会も多く、饅頭作り、高菜漬けなどには主婦としての生活歴と持てる力を発揮していただいている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の状況に応じて週2回以上支援している。清潔保持の為に、シャワー浴、清拭など随時の対応もなされている。気分転換に入浴剤を使用したりトリフレッシュするための入浴支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の小さなことでも関わって頂くようにして、能力を発揮し特技を生活に活かして他者にも喜んでいただくことで、やりがいと楽しみも感じていただく支援に努めている。畑仕事や草鞋作り、障子の切り張りであったり、水汲みの手伝い、食事の買出しや食材の下拵えなどの役割を担っていただいている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿った継続した支援を行っている。美容室へ行ったり、お菓子など好きな物、下着などの個々の生活用品の買い物、近所への散歩などを入居者は楽しんでおられる。調査当日は体調等を考慮された留守番の方を除き、雲仙へお弁当をもって紅葉見物のドライブへ出かけておられ、地域の行事、四季を楽しみ余韻の残る外出支援に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されておらず、縁側の広い掃きだし窓を含め開放されている。入居者が外へ出られる場合も職員の連携とさりげない見守りを持って支援しており、近隣の方の見守りも十分にいただいている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、地域の消防団立会いのもとに近隣2世帯と運営推進会議メンバーである地域の方も協働して避難訓練を実施している。その他にも、2ヶ月に1回の自主訓練、スタッフ会議におけるシミュレーション訓練も行っている。昨年の評価を受けて自然災害に向けたマニュアル作りと、非常時持ち出し品、備蓄の確認、把握の取り組みもおこなっている。		災害対策に対する前向きな取り組みにプラスするかたちで、非常時持ち出し品リストの中に入居者の基本情報ファイル(写真を添えたもの)を加えられることが望ましい。災害後の介護に視点を移し、いかなる状況においても統一したケアを安心をもって提供できる為の備えとして、持ち出し用のファイリングを独自で検討工夫され準備されることに期待したい。

グループホーム ふるさとの家「城下」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師である職員もいて栄養バランスには配慮しており、状況に応じ主治医の支持も仰ぎながら調理担当の職員が献立を立てている。入居者の状態に応じてキザミ、ほぐしといった形態食の支援もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	築70年あまり経った古民家の趣きが活かされている。玄関の上りがまちはあえて段差を残して日常での機能リハビリとなり、続きの間の和室は広々と多目的空間として活用される。風情ある縁側は憩いの場として調査当日も入居者が陽だまりで寛がれていた。台所、浴室、トイレは使いやすく現在の生活に即して改装されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔ながらの家族としての暮らしそのままに、日中居間としているスペースや、二人部屋、一人部屋と好みと状況に応じて入居者の寝所としている。生活用品や馴染みの品は各自の所定の場所に置かれ、共に暮らすその様子に入居者、家族も満足しておられる。		